

第1252回経営委員会資料  
平成28年1月12日

平成27年度 第5回

NHKキャンパス・ミーティング@埼玉大学

視聴者のみなさまと語る会開催報告書

(平成27年11月17日(火) さいたま・埼玉大学 開催)

(案)

経営委員会事務局



#### <会合の概要>

「経営委員会による受信者意見聴取」の平成27年度第5回は、対象を大学生に限定した企画型として、さいたま市の埼玉大学で実施した。

なお、大学生に限定した企画型の「語る会」は、東京・武蔵大学（平成21年）、兵庫・関西学院大学（平成22年）、東京・中央大学（平成25年）、東京・東京藝術大学（平成26年）に続き、5回目の実施となった。

当日は、参加した学生を3つのグループに分け、各グループに経営委員、理事がそれぞれ加わり、「公共放送NHKはどうあるべきか」「公共放送の財源『受信料』について」などのテーマについて24名の学生から意見を聴取した。

#### <会合の名称>

「NHKキャンパス・ミーティング@埼玉大学 視聴者のみなさまと語る会～NHK経営委員とともに～」

#### <会合日時>

平成27年11月17日（火） 午後4時30分～午後6時20分

#### <出席者>

【視 聴 者】	公募による大学生	24名
【経営委員】	井伊 雅子	委員
	長谷川 三千子	委員
	室伏 きみ子	委員
【執 行 部】	浜田 泰人	理事・技師長
	今井 純	理事
	安齋 尚志	理事
【 司 会 】	内藤 啓史	シニア・アナウンサー

#### <会場>

埼玉大学（埼玉県さいたま市）

#### <開催項目>

以下のとおり進行した。

1. 開会あいさつ
2. 経営委員による説明、協会の基本方針、重要事項について
3. 意見の聴取（グループディスカッション）
  - (1) 公共放送NHKはどうあるべきか
  - (2) 公共放送の財源『受信料』について
4. 各グループディスカッションの報告
5. 閉会あいさつ

「視聴者のみなさまと語る会」終了後、守本 奈実アナウンサーによる「アナウンサー12年生 奮闘中です！」と題した講演会を開催した。

#### <概要・反響・評価>

- 公募の結果、ホームページなどを通じて申し込みがあった39名のうち24名が参加した。
- 当日は、3つのグループに分かれて「公共放送NHKはどうあるべきか」「公共放送の財源『受信料』について」などをテーマにしてディスカッション形式で進行した。
- 参加者からは、「NHKに望む番組」「東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み」「受信料の公平負担」「留学生の視点から見たNHK」など、多岐にわたる意見や提言が寄せられた。
- 語る会終了後に行ったアンケートには、21名から回答があった。主なアンケートの結果は次のとおり

#### <参加者の満足度>

「大変満足」8名、「満足」10名、「普通」2名、「不満」1名

#### <経営委員会の仕事について>

「今回のイベントに参加して、経営委員会の活動について理解が深まりましたか」との質問に対し、「経営委員会の活動について理解が深まった」との回答が19名からあった。

## 《 協会の基本方針・重要事項の説明 》

(長谷川委員)

NHK経営委員の長谷川です。

私は埼玉大学で哲学を教えておりました。NHKの経営委員には平成25年12月に任命され、2年間務めています。

まず、経営委員会の役割についてご説明いたします。

経営委員会の役割は、放送法に明文化されており、NHKの経営の基本方針などの議決や会長の任命、会長以下NHK執行部の役員の業務の監督などNHKの経営に対して重い責任を負っています。

こうした役割を持つ経営委員会の委員は、衆参両議院の同意を得て、内閣総理大臣により任命されます。

委員の選任に当たっては、教育、文化、科学、産業、その他の各分野、および全国各地が公平に代表されることを考慮しなければならないと放送法で定められています。

経営委員の任期は3年で、再任されることもあります。委員の定数は12名です。

また、経営委員の中から監査委員が任命されることになっており、経営委員を含めた役員の職務の執行を監査する役目を担っています。現在、その監査委員は、上田委員、佐藤委員、森下委員の3名が務めています。

私たち経営委員が務めを果たすために、視聴者の皆さまのご意見を直接伺う会合を全国各地で年6回以上開催すること、会合では経営委員が協会の基本方針や重要事項を説明することも定められています。

本日は、大学生の皆さんからNHKに対する忌憚のないご意見をお聞かせいただくことが主な目的ですが、その前に、NHKの現在の取り組みについてご説明いたします。

NHKでは平成27年度から平成29年度までの3か年経営計画の中で、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの年に最高水準の放送サービスの提供を目指すということを掲げています。

経営計画の内容については、本日お配りした資料をご覧くださいこととし、本日はNHKの新たなインターネットサービスについて簡単に触れさせていただきたいと思えます。

平成27年4月1日の改正放送法の施行により、受信料を財源とするNHKのインターネット活用業務の可能性が広がったということを踏まえ、平成27年度に実施するNHKのインターネットサービスの一部をご紹介します。

まずは、「ニュース・災害情報発信の強化」についてです。

NHKのニュース・災害情報については、いつでも、どこでも利用できるよう多様な伝送路と端末で正確かつ迅速に配信するとともに、緊急災害時のテレビ放送の同時提供や関連映像のリアルタイム提供などを実施しています。

また、番組内容の理解を深める、質の高いコンテンツの提供や外国人向けテレビ国際放送、「NHKワールドTV」の充実強化に合わせて、ホームページの刷新やインターネットへの放送同時提供、一部番組の見逃し視聴サービスを実施しています。

続いて、インターネットから提供されるさまざまな情報や機能を利用できる放送と通信の連携によるサービス「ハイブリッドキャスト」についてです。

2013年に開始したハイブリッドキャストでは、いつでも見られる、暮らしに役立つコンテンツを充実し、ハイブリッドキャストならではのサービスを提供しています。なお、27年度はインターネットサービスの向上・改善の検討のためにテレビ放送のインターネット同時配信の検証実験を実施しています。

総合テレビの内容を同時配信する検証実験を実施したほか、11月27日からはスポーツ中継の一部について同時に配信する検証実験を行います。このスポーツ中継の実験は、日本国内でインターネットに接続できる方ならどなたでもご覧いただけますので、ぜひ、皆さんにもご参加いただきたいと思えます。

NHKでは、2020年に向けてインターネットを活用した新たな放送サービスやスーパーハイビジョンなど視聴者の皆さまに新たな価値を提供できるサービスに積極的に取り組んでまいります。

公共放送NHKの使命や長期的なビジョンを考える上でも、きょう皆さんからいただくご意見やご要望が大変貴重なものになると考えています。

きょう、ここにお集まりいただいた皆さんから頂戴するご意見、ご要望を私たち経営委員全員はもちろん、執行部とも共有して、今後のNHKの経営にぜひ反映させてまいりたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

(司会)

以上、長谷川委員からの説明でした。

きょうは、ご参加いただいた方全員からお話を伺えるように、この後は3つのグループに分かれていただきます。

## 《グループディスカッション》

### ○ Aグループ 室伏 きみ子 委員、今井 純 理事

(室伏委員)

きょうは2つのテーマでお話を伺うことになっています。

まずは、「公共放送NHKはどうあるべきか」です。公共放送は、国営放送でもなく、民放とも違います。「公共放送であるNHKが現在、そして未来にどうあるべきか」ということが一つの論点かと思っています。

もう一つは、昨今話題になっている「公共放送の財源『受信料』について」です。NHKの財源である受信料を皆さんに公平に負担していただくことが大変重要な課題です。

【会場参加者】

民間の場合、広告収入が収入源となるところが、NHKと大きく異なる部分だと思います。

【会場参加者】

災害時にヘリコプターを派遣する、伝送する経路を持っているなど設備の豊富さがNHKと民放で異なる点だと思います。

NHKから民放に回路などを貸しているということもありますか。

(今井理事)

例えば、テレビの放送を送信するための鉄塔を共同で建てることはありますが、送信機は各社ごとに持っています。

民放とNHKで一番異なるところは、NHKは広告放送が禁じられており、受信料を財源にしていること、民放は主にスポンサーからの広告収入で経営されているということです。

また、NHKは全国放送をしているということも異なるところです。民放の番組も全国で放送されているように思われますが、基本的には地方のそれぞれの会社ごとに放送されています。広域の場合もあれば、狭い場合など、放送エリアの多少の大小はありますが、基本的には、地域ごとに放送されており、民放のキー局がつくった番組を地方の放送局などがそれぞれ別のところで放送しています。

**【会場参加者】**

留学生です。私が日本語の勉強を始めたとき、先生からNHKの番組を見ることを薦められました。授業では、NHKのニュースを聞いて翻訳の勉強をしていましたが、先生から「NHKのニュースのように話せるようになる」ことが一番高いレベルとして求められていたため、「NHKはすごく信用できる」という印象を持っています。

また、NHKと民間放送とは、自分なりの組織があることや管理の仕方の違いがあるのではないかと考えています。

(室伏委員)

随分NHKを活用してくださっていたようですね。

**【会場参加者】**

先生が「NHKのアナウンサーの話すスピードを少し遅くした程度で練習すると、日本語のよい勉強になる」と言っていました。クラスの学生たちは皆、NHKを知っています。

(室伏委員)

NHKがそのようにお役に立っているとは、うれしいですね。

**【会場参加者】**

外国でNHKをどのような手段で見っていたのですか。

**【会場参加者】**

学内で見ていました。恐らく日本の協力があって、学内で視聴できるシステムがあったのだと思います。

あまり遊ぶ所がない郊外に大学があったので、NHKの番組を見ることができたことで、大学生活を楽しむことができました。

**【会場参加者】**

NHKは、アメリカやフランス、タイなどに支局がありますが、その国で放送する、ということよりもその国のことを日本に伝えるためという位置づけでしょうか。

(今井理事)

海外の総局や支局など世界中にネットワークがありますが、基本的には海



外の情報を集めるための取材拠点として配置されています。

それとは別に、世界中で放送が見られるように国際放送も実施しています。テレビは英語放送ですが、ラジオについてはいろいろな言語で放送をしています。

**【会場参加者】**

NHKが海外に展開している番組は、どのくらい見られているのでしょうか。

(今井理事)

「どのくらいの人が見られる状態にあるのか」という統計をとるようにしています。日本国内の場合、国が電波を管理し、NHKに割り当てていますが、海外では、民間事業者のチャンネルを借りたり、CATV経由で提供しており、その先にどれだけの人がいるのかということになります。

今、少しでも見ていただけるように、チャンネルを借り上げる努力をして、受信環境の整備に一生懸命取り組んでいるところです。

**【会場参加者】**

将来的には測定することもあるのでしょうか。

(今井理事)

見ている方がどのくらいいるか、ということは、調査をすればできると思います。一番悩ましいのは、お金をかけることで放送を流すことはできますが、実際に見ていただけるかどうか、というのは別の話になる、ということです。海外でも見ていただけるような番組を提供していきたいと思っています。

(室伏委員)

今、NHKでは、海外に向けて質のよい番組を提供することにとても努力しています。そのような番組を海外の方や、海外から日本に来られる旅行者の方々に見ていただくことで、日本のさまざまな文化や歴史を知っていただき、番組を通じて日本のファンになっていただきたいと思っています。

さまざまな協力を得ながら制作している番組は、日本でもインターネットで見ることができます。ぜひ、ご覧になってください。

### 【会場参加者】

10年後など未来になった時点で過去の番組を見たとき、その番組がその時代の一部をあらわしているものであってほしいと思います。報道番組、バラエティー番組など、どのような番組であっても、その時代をあらわしている、ということがとても重要だと思います。また、公共放送の役割として、過去に制作された番組が独立性や中立性を保つという思想のもとで制作された、という信頼が続いていくことが重要だと思っています。

### 【会場参加者】

日本のスポーツとメディアはとても密接で、スポーツが繁栄していくためにメディアは欠かせないものだと思います。日本のスポーツを盛り上げていくために工夫されていることはありますか。

先日、BSで放送されていた車いすバスケットボールの試合では、細かいルールの説明など、初めて見た人でもわかりやすく、理解できる番組作りがされていました。日本の人たちがさまざまなスポーツを見て、楽しむことができる番組を制作してほしいと思っています。

### （今井理事）

ふだん見るスポーツ中継は、野球やサッカーなどに限られていると思いますが、オリンピックとなると、いろいろな種目に関心を持たれると思います。今、オリンピックに向けて、さまざまなスポーツをできるだけ多く紹介する機会を増やし、パラリンピックについては、特に力を入れて取り組んでいこう、と思っています。

BBCの方が「BBCがロンドンオリンピックの中継で成功した理由は、その前の北京オリンピックの際に多くのクルーを出してしっかり練習したから」という話をされていたようです。われわれは、来年のリオデジャネイロ・オリンピックに向けてしっかり準備を整え、さまざまなことを覚え、それを東京オリンピック・パラリンピックに生かしたいと思っています。

スポーツ中継で育んできた知見というのは、その後のスポーツ報道にもつながるものですが、オリンピックは一番大きなイベントであり、人員や経費も非常にかかる大変大切な放送ですので、全力を挙げて準備をしているところです。

### （室伏委員）

確かにオリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典ではありますが、その背景にある文化や歴史などを紹介するよい機会だと思います。

NHKでは、このオリンピック・パラリンピックの報道を通して、それぞれの国の歴史などを紹介しますので、ボーダーレス化が進む社会環境下で、われわれが、将来に向けてどう生きていくべきかということを議論できる場にもなるだろう、と思っています。

また、パラリンピックの開催にどういう意味があるのか、ということを考えるよい機会でもあると思います。パラリンピックは、社会のバリアフリー化を進める上でもよい機会となるでしょう。

### 【会場参加者】

これまでのオリンピック中継を見ていると、パラリンピックについて大きく報道されていない気がします。今後、パラリンピックを見る人、出場する人の気持ちを考え、どのように報道していくことが理想だと考えているのでしょうか。

(今井理事)

パラリンピックでは、撮影したものを編集し、見やすくして放送していましたが、「中継で見たい」というご要望も大変強く、来年のリオデジャネイロからは中継を大幅に増やすことを検討しているところです。

パラリンピックでも、熱のこもった感動を与える競技がたくさんありますので、ぜひ、そのような魅力も中継放送を通じて皆さんにご理解いただけるようにしていきたい、と考えています。

### 【会場参加者】

日本国内では、何年か前ではテレビを見る機会が多かったと思いますが、最近はだんだんとテレビを見なくなり、パソコンで情報を得るようになりました。そして、パソコンの利用は仕事などが中心になり、情報は携帯で得るようになってきています。テレビ放送も徐々に携帯で見るように変わってくるのではないのでしょうか。

また、時間潰しにテレビを見ることが多いと思いますが、携帯で番組を見ることができれば、もっと楽しく盛り上がることができるのではないかと、と思っています。

また、NHKでは外国人向けの放送を行なっていますが、外国人にとってNHKが「日本を知りたいときにはNHK」という存在になっていけばよい、と思います。

中国では、日本の「おもてなし」について大変関心が持たれており、番組を通じて、もっと日本のサービスについて知りたい、と思っています。

また、日本のアイドルの人気があり、アイドルが出演する番組など楽しい番組がお互いを知るための手段となればよいのではないか、と思っています。

#### 【会場参加者】

私はオリンピックを生放送で見たいのですが、留学生は、テレビを持っていない場合もあります。携帯でオリンピックを生放送で見ることができたらとてもうれしいです。

#### （室伏委員）

先ほどの長谷川委員による説明の中で「テレビ放送のインターネット同時配信の検証実験」について話があったように、NHKでは「放送と通信の融合」について研究し、検討を進めています。

#### （今井理事）

先月から1万人程の方を対象に、期間限定で総合テレビと同じ番組をインターネットで試験的に提供しています。また、今後、スポーツ中継を生放送で提供することを検討しているところです。

ことしの4月に放送法が改正され、放送を同時にインターネット経由で提供できるようになりましたが、まだ若干の制限があります。

時々権利の関係で提供できない所がありますが、NHKワールドTVは基本的にインターネットで随時提供しており、インターネットを経由して世界中で見ることができます。

ただし、国内の番組については、スマートフォンやパソコンでいつでも視聴できるわけではなく、試験的提供の対象である1万人の方々や特別なスポーツイベントではない限り、現在の放送法でもテレビと同じ内容を提供することができないことになっています。

NHKはテレビ受信機を設置している方に受信料という形で運営の財源をご負担いただいておりますが、パソコンやスマートフォンのすべてが、受信契約の対象に入っているわけではなく、インターネットにテレビと同じサービスを随時提供し、受信料を支払わなくても同じサービスが受けられることになると財源制度がもたなくなる、という課題を抱えています。そのため、現在は、インターネットでのフルサービスができない状況です。

ただし、皆さんのような若い世代の方がスマートフォンを利用されているということを重々認識し、試験的提供を行うとともに、制度の検討についても進めているところです。

(室伏委員)

現在は、テレビ受信機を持っている方から受信料をいただくことで財政的に成り立っているわけですが、「テレビでは見ていませんが、スマートフォンやパソコンで視聴しています。テレビは持っていないので、受信料は払いません」ということになると、財政基盤が揺らいでしまうこととなります。

NHKの中では、財源を確保しながら、若い方たちにもパソコンや通信機器で視聴してもらえよう検討していますが、課題解決にはもう少し時間かかると思います。

#### 【会場参加者】

『らじる★らじる』のアプリをよく利用しています。ラジオは、無料で聞くことができるため、素晴らしいことだと思っています。

また、今後、日本の人口がだんだん減少していく中、そもそもテレビを購入しないということも含めて、受信料収入が徐々に減っていくと思われますが、どのように考えているのでしょうか。

(今井理事)

なかなか難しい問題です。インターネットが普及していくことにより、どのようにしてNHKの番組を皆さまにお届けするかということと、財源制度をどうするかということは、非常に大きな課題です。

また、この財源制度で重要なのは、テレビを設置されている方に受信料をご負担いただいておりますが、全員の方にお支払いいただいているわけではない、ということです。以前から、「公平にご負担していただく必要があるのではないか」という議論があるように、NHKとしても公平負担に向けて努力していますが、「財源を確保していくためには、制度の見直しを検討したほうがよいのではないか」という意見もあります。

今後、世帯や人口が減少することにより、将来、NHK自身の事業体としての財源が減る時が来るかもしれません。事業体としては、大変重要な問題だと思っておりますが、「公共放送制度というものは、皆さんに支えられているもの」ということを考える必要があります。

例えば、世帯数が減少する中、NHKだけがお一人お一人の負担額を増やして財源を確保する、ということは難しいと思います。大きな公共サービスで大きなご負担をいただくか、小さな放送サービスで小さなご負担をいただくか、ということは国民が決めていただくことだと思っております。世帯の減少により税収やGDPも減少することも考えられますが、このことは、現在、

議論していることとは別の問題だと思っています。

【会場参加者】

つまり、将来的な法律策定のところで政治的な議論をする必要がある、という話でしょうか。

(今井理事)

議論を幾つかに分けて整理をする必要がある、ということです。

世帯減少による収入減少の中で、財源確保にどのように取り組んでいくか、ということと、時代や環境の変化にどのように対応するのか、という話とを一緒に議論するのは難しいかもしれません。

(室伏委員)

社会環境の変化とともに技術革新なども起こります。現在よりも少ない財源で、もっと質のよいものが配信できるということもあるかもしれません。

将来を見通しながら、国民全体で議論し、進めていくべきだろうと思います。

【会場参加者】

参加者の半数以上の方がインターネットやスマートフォンで情報を得ていると事前アンケートの結果に示されていたように、NHKとしてどのような番組を制作し、他の情報との差別化を図っていくのでしょうか。

私は、すぐに得られる情報だけではなく、現状ではフォーカスされていないものを深く掘り下げたドキュメンタリー番組の制作、放送を望みます。

(今井理事)

視聴者の皆さんからは、いろいろなご意見、ご要望を伺います。

基本的には、皆さんのご意見を伺いながら、バランスよく放送していくことだと思います。確かに、スマートフォンやインターネットでは、その特性に応じて多少の違いがあり、特に画面がそれほど大きくないスマートフォンに情報を提供していく際には、多少の工夫がいると思います。

ただし、きょうのテーマの一つでもある「公共放送の役割」という観点から言うと、多様な分野の一部だけを伝えるのではなく、多様な番組をできるだけ幅広くお届けする、というのが基本です。

この基本的な考え方は、インターネット上に情報を発信していくことになっても大きく変わらないと思います。視聴者の皆さんのご意見、ご要望を伺

いながら、多様な番組をお届けすることが基本だと思っています。

(室伏委員)

公共放送というものはどこかに偏った情報や、誤ったことを伝えてはいけません。公共放送はどうあるべきか、ということのを常に考え、視聴者の皆さまの要望に応えつつ、社会にとって本当に役立つものを、誠意をもって制作するのが公共放送です。

NHKでは、公共放送として、さまざまな問題を深く掘り下げるドキュメンタリー番組の制作に力を入れて取り組んでおり、私は、とてもよい番組を制作していると思っています。そのような姿勢は、これからも変わらないと思いますし、変わってはいけないと思いますので、NHKの皆さんには、ぜひ頑張ってくださいと思います。

私たち経営委員は、NHKが「公共放送としての役割を果たす」ことを常に監督している立場です。NHKの組織が誤った方向に行かないように経営委員会で注視し、さまざまな意見を申し上げています。「公共放送がどうあるべきか」ということは、私たちにとっても非常に大きな課題です。

(今井理事)

インターネットの検索機能で情報を取得していると、自分の好きな情報だけに偏って取得する傾向が非常に強くなります。

公共放送の役割として、放送という手段で皆さんが同じ情報を共有することで円満な社会を形成すること、社会全体で課題を共有する環境を整えることも大変大切だと考えています。

そのため、インターネットの機能だけに着目し、番組の内容を決めていくことは難しいのではないかと、と思っています。

**【会場参加者】**

どこかの新聞にスクランブル放送の話が出ていたと思いますが、NHKが受信料を払わなくてもスクランブルをかけない理由について伺いたい、と思います。

(今井理事)

世界の公共放送機関も同様に、スクランブルをかけたり、有料放送で運営しているところはありません。

その理由は、それぞれの国の歴史や文化の中で公共放送機関の成り立ちは異なりますが、「なぜ公共放送が必要なのか」という議論を進めていくと、

今の社会を成り立たせていくためには「利益動機」、つまり、「お金をもらえるから情報を流す」ということだけでは十分ではないという理解のもと、「情報提供対価として情報を渡す」「お金を払ってくれる人だけに放送サービスを提供する」ということではだけはいけない、と認識されています。そのため、財源はさまざまですが、公共放送機関を設けている国が多いのです。

NHKの基本的な放送サービスを有料化し、スクランブル放送としてしまった場合、極端に言えば「民間の有料放送機関でもできるのではないか」ということになってしまいますので、NHKの基本的な放送である基幹放送を有料化し、スクランブルをかけることはしない、ということで今日まで来ています。

(室伏委員)

国民の方々に見てほしい、知ってほしい、という情報を全てに流すということが基本です。「放送や通信を受け取るから支払う」ということではなく、「自分たちが公共放送を支えるために財源となる受信料を支払う」と考えていただきたいと思います。

若い方たちには、「テレビを持っていない」という方が多く、「いずれインターネットにも課金するのか」と怒る方もいらっしゃいますが、公共放送を支えるということは、われわれ国民として重要なことであると捉えていただきたいと思っています。

【会場参加者】

「NHKのこの番組を応援したい」という人は結構いるのではないかと、思っています。

例えば、ドキュメンタリーや、科学報道番組、NHKスペシャルのような番組に対して、用途を限定して支払うという仕組み、つまり、受信料に加えて「NHKのここを応援したい」ということに支払う制度があってもよいのではないかと、思ったことがあります。

公平という観点からは、ずれてしまうかもしれませんが、「公平という立場を堅持していることを応援したい」という寄付を受け付けるような制度を取り入れるということは、あり得るのでしょうか。

(今井理事)

かつて、オイルショックのころや、物価が急激に上昇した際、ありとあらゆる財源について検討した中には、今、お話があったような制度も含まれて



いました。必ずしも「適当だ」という結論にはならなかった、と記憶しています。

世界の公共放送機関を見ますと、広告収入があるところもありますし、寄附金を募っているところもありますが、公共放送を支え、応援していただくという視点で議論いただくことは、大変ありがたいことだと思います。

ただし、運営する側に「お金を払ってくる人のために放送サービスを提供しよう」という動機が生まれる可能性があり、なかなかそのような考えに踏み切りにくい、というのが実情であり、できれば、色につかないお金で支えていただけることが一番ありがたい、ということです。

(室伏委員)

しかしながら、寄付をしていただけるものを断ることは、もったいないとも思います。

(今井理事)

「寄付をする」という方が大勢いらっしゃれば、検討させていただくこともあるかもしれません。

【会場参加者】

留学生の方から「NHKを見て日本語を勉強していた」という話がありましたが、海外の方は、NHKの受信料を支払っていないのでしょうか。もし、支払っていないのであれば、海外の人から寄付金などを募ることは考えられたりしないのでしょうか。

(今井理事)

そこまで検討した記憶はありませんが、議論としてはあってもよい、と思います。NHKにとっては、ありがたいお話だと思いますが、寄付金をいただける方がいらっしゃるかどうか、ということもあろうかと思います。

【会場参加者】

日本の人が出した受信料の中から、海外の人向けの番組を制作している現状に納得いかない人もいます。話を聞いていて、海外の方から、寄附金という形で募ることができるのならば、よい仕組みなのではないか、と思いました。

(今井理事)

放送サービスの直接的な受益者は、放送を受信される方であり、海外向けの放送を国内の受信料で充実させていくことは大変なことです。今は主として受信料を財源としていますが、場合によっては、諸外国のように番組を売っていく形で展開する二次展開のような方法もあろうかと思えます。

寄付という方法がよいのかどうかは、すぐにはわかりませんが、国際放送の財源をどのように確保、捻出するかということは、大きな課題です。

#### 【会場参加者】

イギリス人の友人が「BBCワールドを発信していることで、BBCを誇りに思っている」と言っていました。つまり「世界へ発信するBBCに誇りを持っている。その価値に対してお金を支払うことができる」ということを言っており、国際放送が世界で信頼されているという状況が、お金を支払う動機になり得ると思っています。

(室伏委員)

「世界からの信頼を得るために」という考え方は、とてもすてきです。

(今井理事)

「NHKワールドTV」は、日本から衛星を使って、世界に電波を送り、各国の地域衛星や、ケーブルテレビ、IPTVなどを通じてお届けし、約150の国と地域のおよそ2億8,000万世帯が視聴可能になっています。

(室伏委員)

皆さん、本当にありがとうございました。

これからもNHKにいろいろご意見をいただきたいと思えますし、できればファンになっていただいて、受信料もお支払いいただけたらうれしく思います。

皆さんの声は、ホームページでも受け付けていますので、ぜひ、いろいろな意見を寄せていただければと思います。

- Bグループ 井伊 雅子 委員、浜田 泰人 理事・技師長、  
内藤 啓史 アナウンサー

(井伊委員)

きょうは、「公共放送NHKはどうあるべきか」「公共放送の財源『受信料』について」というディスカッションのテーマを設定していますが、このテーマに限らず、NHKに言いたいことやご要望をざっくばらんにお話しただけであればと思います。

皆さんの世代がNHKに望んでいること、期待していることなど様々なご意見を率直に伺いたいです。

皆さんはNHKの番組を見えていますか、NHKについてどのようなイメージを持っていますか。

【会場参加者】

NHKしか見ません。主にニュースを見えています。

【会場参加者】

最近、バラエティーや『LIFE！～人生に捧げるコント～』のようなコント番組がありますよね。

【会場参加者】

私は、そのような番組を「邪道に走っている」と思っているのを見えていません。一方、最近の番組は、「いろいろ工夫されているな」と感じる事が多く、番組の内容やコント番組など、バラエティーの文字どおり「種類が豊富になった」と感じています。

【会場参加者】

まさに公共放送を表すのはニュースだと思います。民放も全国で放送されている意味では「公共」放送といえるかもしれませんが、NHKは、一番信頼を置くことができ、権威があり、まじめに中立な立場で仕事をしているように感じています。また、最近では、公平性や公共性をどのように確保していくのか、ということに関心を置いています。

【会場参加者】

NHKは、「まじめ」「堅い」と言われている印象がありますが、インターネットなどで様々なニュースが見られる中で、「NHKの情報が一番確か

なのではないか」という話を研究室の仲間内でしていました。「まじめ」である一方、「信頼性が高い」という印象があります。

【会場参加者】

家族も私も災害が発生した際は、NHKを見ています。やはり「堅さ」もそうですが、「信頼性が高い」と思っています。

(井伊委員)

NHKは特に震災や災害報道に力を入れていますので、そういう役割を皆さんに感じ取っていただいているのは、非常にうれしいことです。

中には、「今はインターネットのニュースしか見ない」という人もいるかと思いますがいかがでしょうか。

【会場参加者】

私の場合、実験で学校に残っていることが多く、インターネットで情報を得ることが多いです。

【会場参加者】

『映像の世紀』が『新・映像の世紀』として新しく放送されていますが、そのような貴重な映像がNHKにはたくさん残っており、確か、埼玉県川口市にアーカイブス映像を見る施設があるかと思えます。残されている貴重な映像をもっと広く世間に打ち出し、もっと活用できる場面が増えればいいのではないかと、思っています。

また、私はドキュメンタリーが好きなので『ドキュメント72時間』など「NHKだからこそできる」という番組で、現在、社会で問題になっている事を取り上げれば、関心のある学生はきっと見ると思っています。

(浜田技師長)

『映像の世紀』のご視聴ありがとうございます。

NHKは、貴重な映像をたくさん持っており、埼玉県川口市の「NHKアーカイブス」に保存しています。また、昔の番組を皆さんにご覧いただけるように、NHKにお越しいただいた際に、保存されている番組の一部をご覧いただけるようになっています。

著作権などの理由で、一般に公開できる番組が少なくなってしまうこともありますが、なるべく多くの番組をご覧いただけるよう取り組んでいます。

採用面接の際、学生の皆さんから「『ドキュメント72時間』をよく見て

いる」という話を聞きます。定点的にカメラを置いて追う手法は、若い方から評価をいただいています。このような番組を含めて、これからも若い人に見ていただける番組をぜひ放送していきたい、と思っています。

**【会場参加者】**

先ほど「NHKにしか残せない貴重な映像がある」という話がありましたが、映像に加えてNHKがつくり出してきた、ある種の文化というものもあるのではないかと、思います。

例えば教育番組は、スポンサーをつけて広告料をもらうのは難しいと思いますが、NHKで放送されることで、皆さんもNHKの教育番組を見ていたと思います。私は、小さい頃「NHKの教育番組に育てられた」というほど、NHKの教育番組を見ていたので、「NHKならではの文化をつくり出す」ということが「NHKがどうあるべきか」というところにつながっていくのではないかと、思います。

**(井伊委員)**

日本では、学校でNHKの教材が使われたり、自宅で家族と一緒に見るということがあったと思いますが、中国からの留学生の方はいかがでしょうか。

今、NHKは国際放送にも力を入れています、テレビを見たり、ラジオを聞いたりする機会はありますか。

**【会場参加者】**

日本語の勉強のために、日本に来る前は、よくNHKのラジオを聞いていました。

**(井伊委員)**

中国で聞かれていたのでしょうか。

**【会場参加者】**

ネットでNHKラジオを聞くことができました。

NHKのニュースは発音や表現なども正しいので、NHKラジオを聞いて日本語の勉強をしています。

**【会場参加者】**

私は、NHKに対して「日本が抱えている問題点をわかりやすく、いろいろな世代の人に伝えられる力を持っている」と感じています。

私は、水産学部に在籍していますが、漁業において後継者が大きく減ってきていること、スーパーで切り身で売られている魚がどのような魚なのか、そのような日頃あまり話題にならない問題を『クローズアップ現代』で大変わかりやすく放送していました。このように、NHKは「映像でわかりやすく伝えられる力を持っている」と思います。

#### 【会場参加者】

音楽や絵画を展示している公共文化施設の人气が落ち、若い人が来場しなくなってきた中、Eテレで放送している『クラシック音楽館』でクラシック音楽をわかりやすく説明していることは、先ほど出ていた教育の話や「あまり話題にならないことを取り上げる」ということにつながると思います。ほかの局では学べないことを受信料によって放送できることは、NHKの特権だと思います。

(浜田技師長)

「日本の抱える問題点をいろいろな人に伝える」というご意見についてですが、各地域の方々がNHKにどのようなことを期待しているかを調査し、それにこたえていくという取り組みを始めています。

例えば近くに原発のある県の方の「原発に関する情報をなるべく多く取り扱ってほしい」という声や、「自然災害などに関する情報はとにかく迅速に正確な情報を伝えてほしい」という声など、地域の視聴者の皆さまがどのような要望や課題認識を持ち、NHKにどのようなことを期待しているか、ということ进行调查し、皆さんからの意見をお伺いしながら、こたえていくことを今後も続けていきたい、と思っています。

私は技術の人間なので、「なるべく多くの最先端技術を取り入れ、進化させていく」ことを仕事としていますが、映像の持つ力というのは、まだまだ大きいものです。

われわれは、8Kスーパーハイビジョンの開発を20年ぐらい前から行ってきましたが、いよいよ来年から放送を開始できることになりました。高精細な映像を将来の記録として残すこと、今起きていることを今一番よいもので記録に残しておくことが「2015年にはこういうことがあった」など、将来の財産となりますので、取り組んでいきたいと思っています。

「美術館に行かなくても、美術館で見ているかのように絵画をご覧いただけるようにしたい」「テレビでクラシックコンサート会場さながらのもっと迫力のある、その場にいるような放送を届けたい」との思いで、NHKの技術の人間がいろいろな取り組みを行なっていますので、ぜひそのような点に

ついても、関心を持っていただきたい、と思います。

【会場参加者】

例えば大学に出張するような形で、司会者と参加者、観覧する人がいるような番組がありますが、民放の場合、観覧している人は、本当に見ているだけで参加することがあまりないように思います。一方、NHKの番組の場合、観覧している人に意見を求めるなど、視聴者もその場に参加しているような雰囲気がある番組になっているように思います。

最近、ハッシュタグやツイッターによる意見を出すニュース番組が増えていますが、その場に観覧している人がいて、意見を交換する番組があるということがNHKの番組が民放と異なっている点のひとつだと思っています。これから、このような参加形式の番組が続いていけば、NHKをもっと身近に感じる機会が増えるのではないかと、と思っています。

(井伊委員)

皆さんはツイッターやハッシュタグに参加されたことはありますか。

【会場参加者】

あまり中身のある発言が少ないと感じており、ニュースの中で視聴者のツイッターを紹介することには、私も家族も反対しています。

【会場参加者】

ツイッターによる発言は、感想のようになってしまって、有意義なものではないかもしれません。

NHKに正確性を求めている人には、ツイッターを紹介することに反対ということもあろうかと思っています。

(浜田技師長)

ツイッターの紹介を手段として認めている人もいますので、よい部分もあるとは思っています。

(井伊委員)

通信と放送をどのように融合させていくか、ということは日本だけではなく、世界的な課題です。

特に、インターネットの情報は早いので、私の周りでも「ニュースは全てインターネットで見ている」という人もいます。しかしながら、早いけれど

も「本当に正しい情報なのか」「真実を伝えているのか」「客観性があるのか」という保証がない、という問題があります。その点、NHKの場合、専門家が取材を行い、正しい情報だと判断されたものが伝えられている、という信頼性がある、と思います。

また、インターネットのデメリットのひとつに、自分が関心のある情報しか入ってこない、ということがあると思います。一方、公共放送のニュースには、自分が関心のあるテーマだけではなく、世の中で重要だと思われること、大切なテーマを伝えるという役目があると思います。

以前は、「技術が進歩していくことで公共放送の役割がなくなってしまうのではないか」という人もいたようですが、むしろ、ますます重要になってきているのではないかと、思っています。

(浜田技師長)

放送とインターネットの持つそれぞれのよさを上手に活用しながら、それぞれにあった情報を届けることが、これからの時代に大切なことだと思っています。

放送は、電波を使って一斉に情報を届けるということでは非常にメリットのあるメディアであり、例えば今のテレビの視聴者のうち1%の方がインターネット経由でテレビと同じ画質の番組にアクセスしようとした場合、日本の通信インフラがパンクしてしまう程の大量のデータを送っています。

一方、マスメディアは、すべての人に同じ情報を出しているため、皆さんは、「私は、この中のこの部分をもう少し知りたい」「ここについてもう少し違う情報はないのか」となった際にスマートフォンで検索する、ということがあるかと思っています。その際、NHKでも皆さんがアクセスしたい情報を通信の経路で同時に提供しており、それが先ほどご説明した「ハイブリッドキャスト」です。

また、放送は一方方向性で、逆のルートがなかったのですが、『着信御礼！ケータイ大喜利』という番組では、視聴者の皆さんからアクセスしてもらい、すぐ文字にして放送するという取り組みも行なっています。このように、今いろいろなトライアルに取り組んでいるところであり、これからもいろいろな番組でチャレンジしていきたい、と思っています。

**【会場参加者】**

私は、教育学部で障害児教育を専攻しています。

『ピタゴラスイッチ』は、子供たちに非常に人気があり、見ていると子どもたちが静かになるほどです。



「公共」という言葉には、いろいろな要素が含まれていると思いますが、例えば、障がいのある人、美術館に足を運べない人も含めた全ての世代、全員に対して、ということがキーワードになるのではないかと、思っています。

選挙権が18歳に下がって、高校生にも政治の情報などを提供する必要があると思いますが、それは教育テレビで扱われるテーマなのでしょうか。高校生や大学生など若い世代に向けて、今後どのようにしてニュースや情報を伝えていくのか、方向性を伺いたいと思います。

(浜田技師長)

非常に建設的にとらえていただいております。

NHKは、衛星も含めてテレビ4波、ラジオが中波とFM合わせて3波、そのほか国際放送も含めたメディアのトータルで、いろいろなご要望に応えられるような番組を編成し、お届けしていますが、災害時になるべく正確な情報を早くお届けし、人々の命と暮らしを守るということは、公共放送の最大の使命だと思っています。NHKの職員は、一報が入れば、たとえ休みの日でもすぐに放送局や現場に急行し、情報を出せるようにするという訓練を受け、使命感をもって取り組んでいます。

また、さまざまな意見があり、いろいろな議論がある事項については、多角的にお伝えし、公共放送として健全な民主主義の発展、発達に寄与していきたい、という思いで取り組んでいます。

一方で、魅力や見ごたえのある豊かなコンテンツをお届けすること、民放ではスポンサーがつかず放送することが難しいあまりメジャーではないスポーツをお届けすることなど、番組によってふさわしい時間やメディアを活用して皆さんにお届けをするということも、NHKの役割だと思っており、視聴者の皆さんから寄せられるさまざまなご要望も踏まえながら、来年の番組編成について検討しているところです。

(井伊委員)

私たちには、生まれたときからNHKがありますが、公共放送がない国もあります。私が大学院を過ごしたアメリカでは、地方のローカルな公共放送のネットワークがありますが、全国規模での公共放送はありません。あるアメリカの上院議員が「イギリスのBBCは、事実や議論の場を提供しているが、残念ながらアメリカにはそのような放送局がない」と発言しているのを聞き、私たちはNHKという公共放送があることを当たり前には思っていますが、アメリカ人は非常にうらやましがっている、と思いました。

民主主義を保っていくために、いろいろと苦労しているわけですが、私た

ちには、既に公共放送というインフラストラクチャーがあり、それをこれからの若い世代の人たちが守り、いろいろな形で生かしていただきたいと考えています。

NHKの語学講座ですが、私は中学校1年生のときからNHKの『基礎英語』『続基礎英語』で英語を勉強していました。また、私の知り合いで、数か国語ができる「語学の天才」だと言える人がいるのですが、その方は全部NHKの語学講座でマスターしたそうです。

今は、私が学生のころよりも、番組作りも工夫されていますので、ぜひ活用してほしいと思います。

#### 【会場参加者】

私は大学では中国語を専攻しましたが、大学では学ぶことのできない語学も含めて、NHKの語学講座では、幅広い言語が提供されており、とても助かっています。

また、手話も一つの言語だと思いますが、手話ニュースが豊富にあり、手話講座の番組に若い世代に人気のある人が出演するなど、親しみやすく感じています。

(井伊委員)

もう一つのテーマ「受信料」について、学生の立場から疑問やご意見があればお伺いしたいです。

#### 【会場参加者】

受信料を多くの人からきちんと徴収するためにマイナンバーの活用を検討するというニュースを見ました。そのことに関して、何か決まったことや今後の方針をお聞かせいただけますか。

(浜田技師長)

今、受信料について検討を始めたところであり、マイナンバーの活用など、まだ何も決まっていません。

NHKは、公共放送として「いつでも、どこでも、だれにでも」多様な伝送路で情報をお伝えする、という情報の社会的な基盤の役割をきちんと果たすことを目標に掲げています。

今の受信料制度は、「受信機があればNHKと契約し、受信料をお支払いください」という制度であり、テレビを持っておらず、スマートフォンでアクセスしている人たちはどうするのか、放送を取り巻く環境が大きく変わっ

ている中で、受信料をどうするかということを検討していかなければなりません。

最初は、ラジオ放送だけだったNHKの放送も、白黒テレビ、カラーテレビ、衛星放送の開始とメディアの進展とともに受信料制度も変わってきています。現在は、インターネットでの提供も踏まえた受信料制度について研究を始めたところ です。

#### 【会場参加者】

私たちの親の世代は、NHKに対する信頼があり、受信料を支払うことに不満がない印象がありますが、学生の中には、切り詰めて一人暮らしをしている人、テレビを見ていない人が結構いて、NHKを見ていないのに受信料を支払うことに不満を持っている人もいます。

難しい問題だと思いますが、そのような反感を蓄積していると、将来、爆発してしまのではないかと懸念しています。

(浜田技師長)

今、新しい時代にふさわしい受信料制度の検討を行なっているところですが、視聴者や国民の皆さまのご理解を得ないことには、新しい制度は成り立たないと思っています。

「テレビを見たらいくら払う」という対価意識があることも認識していますので、私達も丁寧に説明していきたい、と思っています。

受信料は、公共放送として、社会のインフラとして、きちんとした情報を届ける活動を支える特殊な負担金として、「NHKの活動を支えてください」という趣旨で皆さんからお支払いいただいているものであり、対価として「視聴したらいくら」ということとは、異なるものということです。

(井伊委員)

財源をみずから集め、客観的な情報を得るために、自分たちで支えていくのが受信料制度です。サービスや物を買う際にお金を支払うこと、見ても見なくてもとられる税金とも異なる独特の性格を持った制度だと思います。

#### 【会場参加者】

公共性や公平性をしっかり確保していくことで、受信料の理解が広がっていくのではないかと思います。

受信料を巡って、裁判やマイナンバーの活用など話題になっていますが、結局は「NHKは公共放送としてどうあるべきか」ということが、そのまま

「受信料制度をどうするか」ということに直結するのではないのでしょうか。

せっかく公共政策を専門とする経営委員の方に来ていただいているので、そのような見地からのご意見をお伺いできれば、と思います。

(井伊委員)

通常のサービスや商品と異なり、「対価を期待し、それに応じて払う」というものでもなく、税金のように「見ても見ていなくても、一律にとられる」というものでもありません。財源をみずからの手で集め、民放と異なり特定のスポンサーに気兼ねすることもなく、税金ではないため、国に気兼ねすることなく、世の中に伝えるべきことを伝える、それが公共放送の役割です。

**【会場参加者】**

何かしら、特定のスポンサーや国から得ている財源はあるのでしょうか。

(浜田技師長)

ほとんどの財源は、受信料ですが、国際放送に関しては、一部、政府交付金を受けています。しかし、国際放送の番組の中身について口を出される、ということはありません。

**【会場参加者】**

やはり、お金の出どころがそのまま「公共放送がどうあるべきか」ということになり、その逆もあると思います。基本的には、「今の形のままで」というお考えなのではないのでしょうか。税金化や「見ても見ていなくても一律に徴収」という方向にはならないのでしょうか。

(井伊委員)

これは、経済学者としての意見ですが「受信料制度は、ベストではないのかもしれませんが、ほかに考えられるものの中では、ベストなのではないか」と考えています。

元イギリス首相のチャーチルが「民主主義は、ベストな政治形態ではないかもしれないが、ほかに考えられるものに比べたらベストだ」という言い方をしていました。受信料制度も「他にいろいろな制度があるけれども、考えられる中ではベストではないか」と思います。

【会場参加者】

NHKをよく見ている人からすれば、受信料は「よい番組に対するお礼」や「放送を続けるための投資」だと考えていると思います。

一方、見ていない人にとっては、「対価」であり、「見ていなければ支払う必要がないのでは」という考えになってしまうと思います。

例えば、大学生で一人暮らしをしている場合、実家が契約していれば割引される仕組みがあまり周知されておらず、支払いを躊躇してしまったり、民放に流れて「NHKには支払いたいとは思わない」と考えてしまっている人もいるのではないのでしょうか。

見ていない人に対してアプローチをかけ、少しでもNHKに興味を持ってもらうことで、「よい番組を制作している」と、考え方が変わってくるのではないか、と思います。

つまり、受信料を払う側、払っていない側の意識の問題だと考えており、考え方の角度を変え、人へのアプローチの仕方を工夫していくことで、受信料収入も増えていくのではないか、と考えています。

その一歩として、「どういう制度があるのか」「集まった受信料がどのように使われているのか」という情報をもっと発信していく姿勢があれば、とも考えています。

【会場参加者】

それは視聴者が考え方を变えるのか、それとも、NHKが働きかけるのか、どちらでしょうか。

【会場参加者】

どちらも必要ではないのでしょうか。

ただし、視聴者が突然考えを変えらるということは、あり得ないことだと考えています。また、NHK側から一方的に「受信料を支払うように」と告げられるから反発があるのだと考えています。

視聴者からの反発を少し和らげるような取り組みが行われることで、多少は理解が進むのではないか、視聴者の意識も改善されるのではないか、と考えました。

(井伊委員)

まだまだNHKは努力が足りない、ということでしょうか。

【会場参加者】

支払っていない人にも少しかたくなな一面があると思います。かたくなになっている視聴者に対し、番組視聴を促し、視聴者はまず番組を見る、というように取り組んでいくべきではないでしょうか。

【会場参加者】

私もその意見に賛成です。例えば、アイドルのコンサートを催した際にNHKのあり方などを伝える、合唱コンクールなどのイベントの際にNHKの意義を伝えるなど、広報やイベントでの取り組みが必要ではないか、と思います。

(内藤アナウンサー)

参加者を受信料をお支払いいただいている方に限定したイベントの実施など、受信料をお支払いいただいている方への取り組みをはじめています。

【会場参加者】

支払っている人と支払っていない人にある程度の待遇の差のようなものをつけていくべきではないでしょうか。難しいかもしれませんが、NHKのよさを発信するイベントと、受信料を支払っている人に還元するイベントで差をつけて開催することも検討すべきだと考えています。

【会場参加者】

受信料を支払っていない人を完全にシャットアウトしてしまうと、これ以上の収入が見込めないのではないかと、思う部分もあります。

【会場参加者】

差をつけることで「公共性」の部分が薄まってしまうこともあるのではないのでしょうか。

(浜田技師長)

とても大切なお意見をいただいたと思っています。

私たちも、受信料制度について理解していただけるよう努めており、入学の時期に大学にお邪魔し「皆さんの親元で受信料をお支払いいただければ、家族割引が適用され、受信料が50%割引になる」などの周知に努めています。

また、NHKに接触していないため、テレビで周知しても見ていただけない

い方やNHKのホームページにアクセスされない方に対して、どのようにして接触していくかが課題です。訪問してもオートロックマンションのため、なかなかアプローチできない中、まずは、お支払いいただけない方にお会いし、ご理解いただいた上で受信料をお支払いしていただくという地道な活動を続けています。

残念ながら今の受信料の支払率は、76%です。4世帯に1世帯からお支払いいただけていないということで、この3年間で支払率を80%に持っていきこうという活動に取り組んでいます。この支払率80%がゴールではありませんが、理解していただく活動に取り組んでいきます。

#### 【会場参加者】

公平という面では、「あまねく日本国民全員を対象に放送を見てもらう」ということが、もともとの目的なのではないでしょうか。

(浜田技師長)

放送法第15条に日本放送協会の目的という項があり、NHKの業務として「協会は、公共の福祉のために、あまねく日本全国において受信できるように豊かで、かつ、良い国内基幹放送を行うとともに、放送及びその受信の進歩発達に必要な業務を行う」と規定されています。

#### 【会場参加者】

一般市民の人たちとの間にギャップがあって、今、激変している時なのだと思います。

(浜田技師長)

番組制作にたずさわる人たちが、「健全な民主主義の発展と文化の向上に寄与する」「放送の自主・自律を堅持する」といった使命を十分に理解し、高い倫理観を持って日々の仕事にあたるための指針として「放送ガイドライン」というものがあり、日々確認しながら、番組を制作しています。

#### 【会場参加者】

ありがとうございます。インターネットなどの技術的な普及の話も大事だと思っていましたが、今後、人との付き合い方が一番根本にあって、忘れてはいけないことだと思い、お伺いしました。

【会場参加者】

NHKには、視聴率よりも「視聴質」を重視した番組をこれからも制作していただきたいと思っています。

小さいころからずっとNHKを見てきて、今、自分が持っている知的好奇心の形成にNHKの番組が大きくかかわっていると思っています。最近のNHKは、民放寄りになっているように思えますが、これからもNHKらしい番組を残していただきたい、と思います。

(井伊委員)

すばらしい意見だと思います。

皆さんがいろいろなバックグラウンドを持っていて、まだまだお話を伺いたいところですが、これを機会に、またご意見を伺う事ができればと思います。どうもありがとうございました。



○ Cグループ 長谷川 三千子 委員、安齋 尚志 理事

(長谷川委員)

「公共放送NHKはどうあるべきか」「公共放送の財源『受信料』について」ということがテーマとして掲げられていますが、直接それにかかわらなくても「NHKにこういうことが言いたい」「こういうことが聞きたい」というご意見やご要望を、自由におっしゃっていただきたいと思います。

【会場参加者】

NHKは、BSや地上波、ラジオという、さまざまなメディア、ツールを持っていますが、どのメディアをメインに据えて、番組編成や構成をしているのでしょうか。

(安齋理事)

どの波も大切にしていますが、最も経費をかけているのは、総合テレビです。各波それぞれに役割がありますが、総合テレビは、NHK全体として、皆さんにお伝えしたいというものがまとまっているものです。

教育テレビは、教育分野のものもお伝えするとともに、趣味や実用的なもの、語学、学校放送など、その方々に合ったものを放送しています。

また、BSでは、BS1は国際報道とスポーツ、BSプレミアムは、エンターテインメント、ドキュメンタリー、ドラマ、自然番組など、さまざまなものについて、総合テレビよりも「マニアック」なものを提供しています。

そのほかに、テレビ国際放送では、外国の方たちに向けて出す放送と、外国に住んでいらっしゃる日本人に向けた2つの放送があり、ラジオ国際放送は、英語、中国語、韓国語やヒンディー語など17の言語で放送するものと、海外に住んでいる、日本語を理解している方にお伝えする番組の2通りの放送があります。

それから、国内向けのラジオ放送については、ラジオ第一放送でニュースやさまざまな文化、情報をお伝えし、ラジオ第二放送では、語学などさまざまな教育分野をお伝えしています。また、FMでは、音楽や芸能を中心にお伝えしております。

(長谷川委員)

要するに、オールラウンドに放送しているけれども、一番は総合テレビという感じですね。

(安齋理事)

放送を出す側としては、それぞれの波で番組を制作しており、「自分が制作に携わっている番組が一番大切」と思って放送を出していますが、客観的に言うと「総合テレビが最も重要視されている」ということだと思います。

ただし、「私は総合テレビも見るが、特にこの分野では、教育のファンだ」など、視聴される方たちが自主的に、自分で選んでいただけるとありがたいと思っています。

#### 【会場参加者】

かつては「高齢者や、真面目な人、小さい子どもが視聴する」というイメージをNHKに持っていましたが、最近の番組は、そのような傾向が薄れてきているように思います。

例えば、コント番組やBSプレミアムのマニアックな番組など若者世代や、ふだん余りテレビを視聴しないマニア層の方にも親和性の高いコンテンツが充実している、と感じています。

民放との決定的な違いとして、スポンサーによるCMがないことが挙げられますが、最近のこのようなコンテンツづくりにどのようにして至ったのかを知りたいです。

(長谷川委員)

以前、私が出たキャンパス・ミーティングでも「NHKはまだまだ若者の心をつかんでいない」というご意見と、「若者にこびている番組がある」というご意見の2つに分かれました。

今のご意見は「NHK頑張っているね」ということでしょうか。

#### 【会場参加者】

プラスマイナスの感情ではないのですが、「コンテンツ量が増えている」という実感はあります。

(長谷川委員)

つまり「NHKは、スポンサーを気にする必要がないのに、なぜそんなに一生懸命になるのか」というご意見ですね。とてもユニークな、おもしろいご意見だと思います。

(安齋理事)

私たちのスポンサーは、受信料をお支払いいただいている皆さんです。

企業がスポンサーになりませんが、視聴者の方たちがスポンサーです。NHKの現状を極端に言うと、「現役世代は、ほとんど視聴しておらず、65歳以上の方たちが視聴者の大半」ということになりましたが、それでは、これから先が成り立ちませんので、私たちとしては「全ての世代の方たちに見ていただけるような番組を提供する」「見ていない層の人たちに働きかけないと、世の中全体に対して放送を出していることにならないのではないか」と考えています。

ご指摘のように、「高齢者や真面目な人が見ている」というイメージで捉えられていますので、「NHKは、つまらない」と言って見ていない方たちに、もう一回振り向いてもらいたいと考え、また、「公共の福祉のために」と言っても、見ていただかなくては何もなりませんので、多くの方たちに見ていただく、ということに力を入れています。

ただし、「中身は何でもよい」というものではなく、見ていただけていない人たちにとっても、興味を引き、少しは役立つものにしたい、と考えており、きょうも来年度からの番組編成について激論をしてきたところです。

(長谷川委員)

番組を見ていて、「このところは、まだまだ」「このようなことをもっと充実させてほしい」というようなご意見があれば、ぜひお伺いしたいと思います。

【会場参加者】

ニュースをいろいろな時間帯に放送しているので、情報確保の手段としてNHKの番組を見ています。

公共放送という立場から、スポンサーとのしがらみがなく、公平・公正に報道できるのはNHKしかない、と思っており、ぜひ、毎正時の前にニュース番組を入れるなど、待ち時間なくニュースが見られるような環境があれば、と思っています。

(長谷川委員)

報道やニュース番組は、NHKの放送において一番の柱になっているところであり、そこに経費をかけているということでも、「ぜひニュースを見ていただきたい」というところは、ありますか。

(安齋理事)

ニュースは、ぜひ見ていただきたい、と思っていますが、ニュースも含め

て、若い世代や現役世代の方たちになかなか見ていただけていないのが現状です。

ニュースの伝え方にも問題があるのではないかと、とも私自身は思っており、最初から「これは知っている」ということを前提にした解説ではなく、「今からでも間に合う」という感じで解説する、「教えてあげるよ」という姿勢ではなくて、「一緒に考えましょう」「このような説明ではいかがでしょうか」という姿勢が必要とも考えています。

ニュースに限らず、NHKの姿勢がどちらかというと「上から目線」という指摘を受けます。実際には「上から目線」ということはありませんが、そのように受けとめられかねないような冷たさや不親切というものを改善し、若い方たちにも見ていただけるようにしていきたい、と思っています。

#### 【会場参加者】

「NHKはスポンサーがないので公平・公正な報道ができる。だから短時間のニュースをたくさん放送してほしい」という意見がありましたが、短時間でわかる情報というのは、民放や、携帯でも伝えられると思います。私は、NHKの公平・公正にできるという立場を生かし、時間を使って「視聴者に寄り添う」ことができる放送時間を確保したほうがよい、と思います。

私は、民放の娯楽番組を「使い古された、同じようなものばかり」という印象を持ち、最近は見なくなりました。

NHKが放送しているマニアックな番組や情報番組などをザッピングし、行き着く先が教育テレビだった、ということもあります。

「報道を目当てにNHKを見る」という層も一定程度いるとも思いますが、私のように、「娯楽を求めてNHKに行き着く」という層も結構いるのではないかと思います。

#### (安齋理事)

皆さんのようにNHKを見ている方ばかりだといいますが、皆さんのお友達などで「NHKは見ない」という方は、「つまらないから見ない」という感じが多いのではないのでしょうか。

#### (長谷川委員)

いろいろなテレビの見方、あるいはスマートフォンだけで見る方もいらっしゃると思いますが、皆さん一人一人の見方の個性を伺っていくのもおもしろいかもかもしれません。

留学生の方は、日本のテレビ放送をどのようにご覧になっていらっしゃる

ますか。

【会場参加者】

ニュースの内容に感心しています。日本国内のニュースよりも国際ニュースのほうが興味深いです。

(長谷川委員)

中国の放送と日本のNHKと比べてみて、海外の出来事の放送の仕方について、何か違いを感じますか。

【会場参加者】

NHKは、中国よりもっと公平な報道ができます。中国のテレビ局の特に国際的なニュースは、あまり信じられないように感じます。

【会場参加者】

今、一人暮らしで家にテレビがなくNHKを見ていませんが、実家にいたころは、NHKの宇宙や科学に関する番組や語学番組を見ていました。

一人暮らしをはじめて、疑問に思ったのは、やはり受信料のことです。家にテレビがないため、NHKを見ようと思っても見られないのですが、受信料を徴収に来た人に、「パソコンを持っていたり、携帯にワンセグがついていたら、受信料を支払わないといけない」と言われました。

まず、そもそもワンセグの使い方がわからず、見ようにも見られない環境にもかかわらず「受信料を支払って」と言われるのは、いかがかと思いました。自分のように家にテレビがない人でも、NHKの番組を見られるような取り組みはしているのでしょうか。

(長谷川委員)

皆さんからいただいた事前アンケートの結果にもあるように、テレビよりもスマートフォンで情報を得る人の割合が多くなっているのが全体の流れです。それで、受信料を徴収に来た方も「スマートフォンを持っているのであれば」と言ったのかもしれませんが。

確かに、スマートフォンを持っているからといって、必ずしもその機能を使うとは限りません。この辺りは、難しいところだと思います。

また、学生の方で、一人暮らしをされている場合、ご実家で受信料を払っていらっしゃれば割引きされる仕組みがありますが、それでも「全く見ていないものの料金を支払うことに疑問」ということですね。

(安齋理事)

テレビ受信機を持ってない方は、受信料をお支払いする必要はありませんが、テレビ受信機を持っている場合は、お支払いいただくことになっていきます。

今は、電波のみで皆さんにNHKの番組をお届けしていますが、将来的な話では、受信機を持っていない方にNHKを見ていただくために、インターネットを使って番組やニュースが届けられるようにしたい、と思っています。

その結果、サービスを届けている方たちから、受信料をいただくことを検討してはどうか、という考えも議論にのぼっています。

今は、一軒一軒、受信状況を確認していただいておりますが、パソコンやスマートフォンもお支払いの対象となった場合はどうするのか、台数ごとなのか、個人単位なのか、世帯という単位なのか、という話は、全くこれからの話であり、将来的に検討していきたい、と思っていますところです。

【会場参加者】

今のスマートフォンは、必要としていないのに勝手にワンセグの機能が付いています。テレビが受信できるものが全て「テレビ受信機」となっていることが一番の問題だと思います。

(安齋理事)

それは、テレビ受信機を持っている場合でも、「私は、NHKを見ないから支払わない」ということと同じであり、受信機を所有していれば、お支払いいただくなくてはなりません。

(長谷川委員)

今後の受信料制度のあり方については、経営委員会の中でも何度もテーマとしてあがっているものです。受信料について「私はこのように考える」といったアイデアや「こんな経験がある」「こんな困ったことがある」というご意見でも何でも結構ですので伺いたい、と思います。

【会場参加者】

今のテレビは、デジタル化によりスクランブルをかけられると思います。恐らく、受信料を支払っていない方には、スクランブルをかけて見られないようにすることもできるのではないかと思います。現在、そのようなスクランブルはかけていませんが、何かお考えがあってスクランブルをかけていな

いのでしょうか。

(長谷川委員)

例えば、NHKの受信料を払っていない人は、ほかのチャンネルは見られても、NHKは見られなくなるという、というスクランブルのシステムの導入については、これまでも議論されてきました。

執行部において、このスクランブルの議論は「目下進行中であり、意見は言えない」という感じなののでしょうか。

(安齋理事)

そういうことではなく、私が理事になってからは、理事会でそのような議論は進んでいません。

(長谷川委員)

では、このキャンパス・ミーティングで「スクランブルの採用を検討すべき」というご意見があったことは、お伝えください。

(安齋理事)

私の個人的な感想ですが、例えば災害や、突発的な事故が起きたときに皆さんにその情報を知っていただくというのが私たちの使命です。それが、スクランブルをかけ、見られないようにしてしまうと、情報が届かなくなってしまう。「情報が届かない人ができてしまう」可能性があるのであれば、全員に情報が届き、ご理解をいただいて、受信料をお支払いいただくほうがよいことだと思います。

大きな災害が起きた際、「受信料を支払っていないのだから、情報が届かなくても仕方がない」というのは、私たちNHKの目指すところとは異なりますので、すべての方に情報が届くようにしたい、と思っています。

(長谷川委員)

「公共放送とは何か」というテーマにつながってきますが、地震などがあつた際、NHKにチャンネルを合わせて「どこで、どんな地震がおこっているのか、津波の危険があるのかないか」という情報をご覧になっていると思います。

そのような機能が、NHKの放送の大事な機能の一つであり、「受信料を支払っていないから、あなたには情報を知らせない」ということをしていない一番大きな理由だと思っています。

### 【会場参加者】

NHKが制作した北京オリンピックの記録映像を見たことがあります。「外国の人が、こんなにすばらしい映像、感動させる映像を制作できることは、すばらしい」と思っています。

(長谷川委員)

日本人が撮影した北京オリンピックの映像が立派に撮れている、という感想は、うれしい感想です。

### 【会場参加者】

NHKは公平・公正と言われていますが、何をもって公平・公正なのか。ようか。

企業がスポンサーになっていることで、その企業に対してプラスとなる番組を制作するというのもあれば、スポンサーとなっている企業の事故はあまり放送できない、という弊害があるかと思えます。

しかし、福島原発事故が起きた際、ヨーロッパのメディアでは放送されていた放射能の影響を予測するシステム「SPEEDI」の情報をNHKは伝えませんでした。NHKを信じていたのに、そのような情報が伝えられなかったのはショックであり、「公平・公正」というのが、政府にとって公平・公正であっても、私たちにとって公平・公正なのか、と思えます。

私は、「民主的」という意味を「統治者と非統治者が同じ」という意味で使います。例えば公共サービスを提供している自治体の場合、私たちが選ぶ議会でコントロールしますが、NHKは、受信機を持っていれば強制的に受信料を支払うという公共サービスを提供していても、経営委員を私たちが直接選んでいるわけではなく、内閣総理大臣に任命されるという遠い存在です。

私には「なぜ公共放送NHKは必要なのか」というところがわかりません。インターネットなどさまざまなメディアがあり、有料放送もある中、満足のいくコンテンツでもないものに、なぜ強制的に料金を徴収されるのか。「これが絶対に必要だ」という自信を持っているのであれば、そこをもっと私たちに示してほしいです。

政府が隠したいことなどを、NHKはどのようにして独立性を保って報道しているのか、その辺りを知った上で、「NHKはどうあるべきか」という議論をするべきではないでしょうか。

この震災や災害時において、政権の意図とは違い、国民の側に寄った放送をするための体制づくりについて知りたいです。



(長谷川委員)

放送法の「公平・公正」「真実」というところが、非常に大事なポイントであり、正確な情報としてキャッチできないということは、公共放送の大事な務めが果たせない、という場合があります。

【会場参加者】

実際に、福島原発に関する報道について「海外と比較すると、こんなに放送されていない」という体験をし、ちょうど子供が生まれたばかりだったので「大丈夫なのかな」という気持ちになりました。

(長谷川委員)

逆に、海外では、物すごく間違った情報が流れていました。

(安齋理事)

先程の福島原発に関する報道で「海外と比較すると放送されていない」という話は、どこで得た情報でしょうか。

【会場参加者】

大学の教授のブログで言われていました。

(長谷川委員)

いろいろなデータを見比べることが必要かもしれません。

(安齋理事)

皆さんも「NHK以外のメディアで情報を得られる」と思われるかもしれませんが、その情報の正確性や信頼性にはばらつきがあり、私たちは確度の高い情報を出すことに努めています。「SPEEDI」に関しても、隠したことはありません。

また、海外で報道されたことが、全て正しい報道だったかということ、そうではありません。私が知る限りにおいては、東日本大震災と福島原発について、わかった情報をなるべく正確にお伝えしており「海外のメディアよりも情報をお伝えするのが遅かった」ということはなかった、と思います。

私は、原発に関する番組を制作するチームを率いていましたが、状況を調べた上で、時には「近づきすぎた」といって注意されながらも「これが一番確度が高い」という情報を出していました。

(長谷川委員)

いろいろなところから情報が発信され、たくさんの情報のうち、どこが一番客観的な真実に近い情報なのか、ということを見きわめることは、非常に大変なことです。

先ほど、放送のお金のかけ方についての話がありましたが、いろいろな放送局の中で、情報を収集するためのお金をかけているのは、恐らくNHKだと思います。

また、「NHKスクープボックス」という、災害に遭遇した人が撮った映像を放送に活用する、ということも行われていますが、「この映像は、嘘の映像ではない」ということを責任をもって確かめることにも、難しい部分があるようです。

#### 【会場参加者】

グループディスカッションなので、皆さんがどう感じたのかを聞きたいと思います。意見に対して、「言っていることは違うよ」ということは正しいのですが、それは一つの意見であって、「ほかの人たちは、どう思っているのか」と進めていかないと結局、一対一のディベートになってしまいます。

#### 【会場参加者】

私は、「ブログやインターネットの内容の情報源に信憑性があるか」と問われたら、「自分が信じるか、信じないか」しかないと思います。

また、「NHKの報道にはお金がかかっている」ということは、信頼性を図るひとつの要素であり、NHKの情報は、素人の発言と比べれば信頼できると思いますが、「国民にとって公平」ということでは、先ほど発言にあったように「政府にとって公平・公正な情報なのではないか」ということもあると思います。

NHKが「国民にとって公平」と言っても、少なからず政府の息がかかっている、と思います。だから私は、客観的に自分が「どれが正しいのか」を判断するとき、ひとつのブログや放送局だけで絶対に判断してはいけない、と思っており、「いかに質のいい情報を集め、自分の中での真実を判断する」というのが、メディアにおけるリテラシーなのではないか、と思っています。

NHKは公共放送として「私たちの情報を信じてほしい」というのは当たり前ですが、「NHKは公平・公正なので100%信じなさい」というのは違っており、NHKの情報も他のメディアの情報も取り入れた上で取捨選択を行

い、自分で価値を判断するしかないと思っています。

**【会場参加者】**

私もそのように思っています。

今、情報発信に携わる仕事をしていますが、たくさんの情報量の中で「ここは消さなきゃいけない。ここは明らかにしてはいけない」という政府から検閲のようなものが入っており、情報を削りながらも真実を伝えるために、「ここは真実だ、真実ではない」という取捨選択をしています。

「NHKだから真実を言っている」「民放だから真実を言っていない」というわけでもなく、情報を受け取る側の問題であり、いろいろな情報を取り入れたほうがよい、と思います。

**(安齋理事)**

少し誤解をされているようですが、今、検閲ということは行われていません。さまざまな所からご意見をいただきますが、政府から直接来るということはなく、民主主義の社会に検閲のシステムはありません。

**(長谷川委員)**

放送法ができた昭和24年の直前にGHQが、「検閲をやめる」とNHKに対して口頭で伝えたことが、日本の検閲制度の最後です。

**【会場参加者】**

どの放送局でも「こういうものは、放送事故になってしまうので、放送してはいけない」という決まりがあって、それを基に判断しているとは思いません。

**(安齋理事)**

『放送ガイドライン』という冊子の中に「こういうときにはここまで、こういうことに配慮しながらやりましょう」という決まりがあります。

この自分たちの規格を守ることによって、正しい情報を出すことになり、そのままの形で出してしまうことで迷惑がかかることを防ぐことになります。

**【会場参加者】**

今、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてNHKも力を入れて取り組んでいることと思いますが、スポーツは、視聴率ランキングでも比較的上位にあることから、視聴者の関心が高いと考えています。今後、

オリンピックを控えて、スポーツ報道にどのように力を入れていくのでしょうか。

また、福祉の向上も含めて、パラリンピックに関して報道する重要性が高まっていくと思いますが、パラリンピックをどのような観点から報道しているのかお聞きかせください。

(安齋理事)

パラリンピックは、非常に競技種目が多いのですが、放送時間で言うと、ロンドンや北京の数倍の時間、オリンピックを100とすると、パラリンピックは80か70ぐらいの時間数を総合テレビや教育テレビ、BSで放送することになると思います。

そのためにも、まずは来年のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで、どこまでできるのか試験的に放送し、4年後の東京オリンピック・パラリンピックにおいてオリンピックもパラリンピックも最大限放送できるようにしていきたい、と思っています。

特にパラリンピックでいえば、障害のある方でも普通に競技場に行くことができ、パラリンピックの終了後も、障害のある方たちがこれまで以上に行動しやすい社会になるような放送をしていく、ということを目指しています。

(長谷川委員)

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは、ブラジルからの留学生が「すばらしい放送があってよかった。」と言ってくれるようなものをぜひ放送してください。

お互いのディスカッションもっと盛り上がりそうなところですが、時間が来てしまいました。きょうは、活発なご意見をだしていただき、本当にありがとうございました。

## 《各グループディスカッションの報告》

(司会)

それでは、各グループでどのような意見が出たのか、各グループの代表の方に3分程度にまとめて発表していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【Aグループ代表者】

「公共放送NHKはどうあるべきか」というテーマでは、主にインターネットを使ったNHKニュースなどからの情報収集について議論しました。

中国からの留学生の方は、学校の先生から日本語の勉強のためにNHKニュースを見ることを薦められ、よくニュースを見ていたそうです。

また、「スマートフォンで生放送を見られるようにしてほしい」という意見がありましたが、それには受信料の支払いに関する課題もあり、「全ての放送を生放送にできるわけではない」ということ、「今後いろいろと検討していく」ということでした。

「テレビで放送されるニュースとスマートフォンで得る情報をどのようにして使い分けるか」という議題については、「国民の意見を取り入れながら、公共放送として質のよい番組を制作することが使命であり、インターネットの情報が増えても、テレビで普遍性のある多様な番組を制作し、放送することが社会にとって役に立つ」という話になりました。

2つ目のテーマ「公共放送の財源『受信料』について」では、NHKが受信料を払っている人だけに放送を提供するようなことを行わない理由について、「国民みんなに知ってほしいことや、伝えなければならないことを提供するのがNHKの使命であり、NHKを支えるために支払う、という意識を持ってほしい」という話がありました。

また、国際放送について、受信料を財源として制作していることが、今後の課題となっているという話がありました。

### 【Bグループ代表者】

「公共放送NHKはどうあるべきか」については、「NHKの現状はどういった特徴があるのか」「時代に合わせて、どういった改善をしていくべきなのか」について話し合いました。

まず「NHKならではの情報を伝えられることがNHKの一番のよさである」という話があり、例えば、「日の当たっていない隠れた社会問題に対してアプローチできること」や「人々の成長のための教育番組を放送できるこ

とがNHKならでは強みではないか」という話になりました。

また、「映像の力」について、非常に活発な議論がありました。4K・8Kといった技術開発に携わっていく中、「世の中で一番よい映像を残すのがNHKの役目であり、その場にいるような気分になれるようなすばらしい映像を残せる技術やノウハウを持っているのがNHK」という話がありました。

また、これからのメディア環境の変化に合わせて「インターネット放送でも、通信と放送の融合という側面で受信料の支払いを検討するべきではないか」という意見や、「通信のよさである速さと、放送のよさである信頼性、これを融合させて世の中に伝えるべき情報を最適な形で伝えていくための対策が必要」という意見が出ました。

「公共放送の財源『受信料』について」のテーマでは、「メディアの進展に合わせた受信料制度が必要」という意見が出ました。

受信料については、「一人暮らしでお金がないのに何で取りに来るのか」「自分は見えていないのに何で支払わなくてはいけないのか」という不満を持っている方がいる中、社会の基盤として、公共の福祉の向上や安全を守っていく公共放送として、「対価意識ではない、お金では買えない価値を伝えていくことが必要」「政権や国に左右されない立場で、本当に伝えるべき情報を伝えていくという目的のために、地道に受信料制度を理解してもらう活動を行っていくべき」という意見が出ました。

### 【Cグループ代表者】

Cグループでは、テーマにとらわれず、ざっくばらんに出た意見について議論を行い、主に「受信料制度」「何をもって公平・公正なのか」「コンテンツの比率」についての意見が出ました。

コンテンツについては、「NHKは堅いイメージ」という意見が出ていましたが、「スポンサーのしがらみがないため、マニアックな番組を放送できるのがNHKであり、そのようなコンテンツを充実したほうがよい」という意見が出ました。

受信料については、「ワンセグ受信機を持っていても、実際にワンセグを使っていないのに、受信料の支払いを求められた」という話から、「NHKを見ていないのになぜ支払わなければならないのか」という意見が出て、「受信料支払いの今後の手段については、改善していくべきではないか」という議論の流れになりました。その議論の中では、「インターネット経由での視聴など多様化が進むこともあり、受信料制度について検討していくべき」という話がありました。

公共放送として、利害関係に左右されていないということが大前提ですが、

「経営委員は、内閣総理大臣から任命された人であって、自分たちで決めることができない。その結果、政権の意向に沿ってしまい、公平・公正な放送ができていないのではないか」「情報の正しさというのはどこにあるのか」という点について、一番時間をかけて議論しました。

また、「本当に正しい情報を得るためには、自分の目で確かめるしかない」「公共放送として、多くのソースを出して、最終的には自分で価値判断をしていくので、その価値判断の役立つコンテンツを提供することが必要」という意見が出ました。

(司会)

どうもありがとうございました。

今、代表して3人の方に発表していただきました。突然のご指名にもかかわらず大役を務めていただきました。本当にありがとうございました。

それでは、最後にきょうのミーティング全体を通して経営委員から感想とお礼を申し上げたいと思います。

(室伏委員)

Aグループでは、さまざまなご意見をいただきました。最初に中国の留学生の方から、NHKニュースが日本語の勉強に非常に役に立ったというお話を伺い、とてもうれしく思いました。

それをきっかけに、国際放送の番組を日本の視聴者の受信料で制作し、放送していることについての話になりました。

その中で、「日本のNHKが制作した番組が海外の人たちからの信頼を生み出すことは非常に素晴らしいことであり、受信料を支払うことに納得している」という意見が出たのは、素晴らしいことだと思っています。

やはり、「世界から信頼されるNHKになる」ということは、とても大切なことです。もちろん、国内で信頼され、応援していただけるようなNHKになることはとても重要ですが、ボーダーレスの時代で、世界中でNHKの番組や姿勢が信頼され、NHKを支援しようという人たちがたくさん出てきてくださることはとても素晴らしいことであり、大事なことを、皆様のご意見から学びました。本当にどうもありがとうございました。

(井伊委員)

「視聴者のみなさまと語る会」は初めての参加でしたが、大学生、大学院生の方が、とてもしっかりした考えを持っていることに大変感心しました。先ほどの各グループの代表の皆さんの発表を聞いて、私のかわりに経営委員

会で発言していただきたい、と思ったほどです。

最近、インターネットやソーシャルメディアから情報を得ることが本当に多くなったと思います。先週末のパリでのテロのような衝撃的な事件が起きると、公共放送は、民主主義を守るために本当に重要な役割を担っている、と思います。

例えば、アメリカには、NHKのような全国規模での公共放送は、ありません。日本では当たり前のことのように思っていますが、公共放送がある、ということはとても幸運なことだと思います。

きょうの会が、将来の日本を担っていく皆さんが「この公共放送をどういうふうに生かしていくのか」ということを考える機会になれば、とてもうれしく思います。本当にきょうは貴重な意見をいただきました。

ホームページなどを通して、これからもご意見をお聞かせいただければと思います。また、この会を通じてNHKに関心がある、社会のために働いてみたいというお気持ちを持った方がいらしたら、NHKで働くことも考えていただきたいと思っています。きょうは本当にありがとうございました。

(長谷川委員)

きょうは留学生の方々にも来ていただいたことが1つの特色だったと思いますが、NHKの番組を海外の方がこのように見てくださっている、ということがわかり、非常にうれしく思いました。

例えば、NHKの北京オリンピックの番組を見て、「北京オリンピックがこれほどまでに美しかったのか」と中国の方が言うてくださっていたように、世界の方たちに美しい映像を届けて感動していただく、これは非常にNHKの大事な役割ではないかと思っています。

そして、先ほどもこの会は皆さんの生の声を直接に経営委員会あるいは理事との合同の会議で生かしていくと申しましたが、きょうのディスカッションで、「受信料の問題をどうしたらよいか」「スクランブルかけることはどうなのか」「公平・公正と言うけど、本当にできているのか」といった切実な議論に直接にぶつかるような、本当に厳しいけれども役に立つご意見をたくさん伺うことができました。

これをぜひ経営委員会でも、それから、理事との合同の会でも、紹介して生かしていきたいと思います。きょうは本当にありがとうございました。

(司会)

以上で公開ミーティングは終了とさせていただきます。皆さん、本日は貴重なご意見、ありがとうございました。



＜キャンパス・ミーティング@埼玉大学＞ 参加者当日アンケート

参加者数 24名

回収数 21枚

→質問1:性別

男	女
11	9

未記入1

→質問1:年齢

20代
21

→質問2:今回のイベントに参加していかがでしたか

大変満足	満足	普通	不満	大変不満
8	10	2	1	

→質問3:今回のイベントをどのようにお知りになりましたか(複数回答)

HP	放送(テレビ)	大学の案内	友人・知人	その他
3	1	14	2	1

→質問4:印象に残ったコーナーはどこでしたか(複数回答)

経営重要事項	分科会	講演会	特になし
1	17	3	

未記入1

→質問5:NHK経営委員会の仕事を知っていましたか

よく知っていた	知っていた	知らなかった	その他
3	7	10	

未記入1

→質問6:今回のイベントに参加して、NHK経営委員会の活動について理解が深まりましたか

深まった	変わらない	わからない	その他
19	1	1	

<アンケートに寄せられた主なご意見>

【経営全般について】

- 「受信料は対価」という意識を変えていく地道な取り組みが必要であり、視聴者との相互理解や意見交換を通じ、受信料が今以上に納得して支払われるようになればいいと思う。
- 公共とはどういったものなのか、知る事が出来て良かった。
- 公共ということと、スマートフォン等によるインターネットサービス等との兼ね合いは難しい問題だと感じた。
- オイルショックの時に議論したという財源の集め方について、具体的に教えていただきたかった。
- 受信料を支払っていない人について「テレビを持っているが視聴しない人」は受信料を支払うべきだと思うが、「テレビを持っていないが、ワンセグが搭載されたスマートフォンを持っている人」の中には、ワンセグの使い方を知らない人もおり、簡単に利用できる環境を整えなければ受信料支払いの理解を得られないのではないか。

【放送について】

- 堅いイメージがあるNHKだが、教育番組やドキュメンタリー番組等、誰が見ても面白く、民放にはできない番組が多くある。
- 「右が真ん中」、「真ん中が左」になってしまうような中で、どのようにして公平、公正を担保して、独立性を保障していくのか。努力して欲しい。
- NHKには、視聴「質」を重視した、知的好奇心を刺激するような面白い番組を制作し続けてほしい。
- テレビを持っていない若い世代が多くいるが、「番組を視聴したくない」とは思っていない。
- 科学番組において、元になった論文リストなどが示されれば面白いと思う。
- 国会中継の中断時は、アナウンサーの解説以外に会場の音声も流してほしい。

## 【運営・その他について】

- 様々な背景を持つ学生が議論することで、公共放送としての意義や、どのように行動すれば評価されるのかについてヒントを見出せた気がする。
- もう少し分科会の時間があれば、もっと議論が深まった。
- ディスカッションの時間がもう少し欲しかった。
- 今回のミーティングを通して、NHKについての理解が深まった。
- NHK理事の意見が聞けたのは有り難かった。
- 委員、理事の方に分からない点の補足をしてもらったことで有意義な時間が過ごせた。
- 「忌憚のない意見を」としているのに、学生の意見に対して、やや感情的になっていた部分があり、少し興ざめした。
- 今回のディスカッションは非常に参考になった。もし、ゆっくりと話を聞ける場があるのならば、今後も参加したい。
- NHKの悩みが発信されると、応援しやすくなるのではないか
- 知識が乏しいまま参加したが、理解を深め、放送について考えるよい機会になった。
- 参加者の中に留学生がいたことで、意見に広がりがあったのがよかった。
- 参加したことでNHKの努力がわかったが、NHKを知らない留学生に対して、どのようにアピールしているのか。
- NHKについてもっと考え、知りたいと思った。
- 今まで以上に多角的に「公共放送」を見つめ、「公共性」や「受信料」その他様々な事項を学ぶことができた。
- また、このような機会があれば、ぜひ参加したい。